

<幼稚園教育>

園内研修充実のための工夫

－身近な自然物を使った造形遊び－

糸満市立糸満南幼稚園教頭 登 紀 美

内容の要約

園内研修を充実させるためには、教師が共通の課題意識をもち取り組むことが大切である。今回、身近な自然物を使った造形遊びについて実践的な研修をする中で、園内研修充実の工夫を探ってきた。

その結果、教師の幼児理解が深まり実践的指導力が向上した。また、教材研究や教材提示の方法が大切であることが分かり、教師の園内研修に対する意識も高まった。

【キーワード】園内研修充実 自然物 造形遊び

目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究の内容	2
1	園内研修	2
2	自然物を使った造形遊び	3
III	保育実践	4
1	活動名	4
2	活動設定の理由	4
3	保育計画及び研修計画	5
4	外部講師による実技研修会	6
5	本時の展開	7
6	本時の具体的な活動内容と留意事項	8
7	検証保育の考察（保育観察から）	9
IV	研究全体の考察	8
1	園内研修を通して教師の指導力は向上したか	9
2	自然物を生かした造形遊びの工夫はできていたか	10
V	研究の成果と今後の課題	10
1	研究の成果	10
2	今後の課題	10

<幼稚園教育>

園内研修充実のための工夫

—身近な自然物を使った造形遊び—

糸満市立糸満南幼稚園教頭 登 紀 美

I テーマ設定の理由

「学校教育における指導の努力点」(H16, 沖縄県教育委員会)では、幼稚園における指導の努力事項の一つとして「園内研修の充実」が挙げられ、その中で「幼稚園教育において、幼児一人一人の個性を重視し、幼児のよさや可能性に着目した幼児主体の教育の充実に努めることが重要である。このため教師が幼児一人一人への愛情ある共感的な理解を深めるとともに、幼児が個性を発揮し意欲的な生活を送ることができるよう、教師の実践的指導力を高める必要がある。」と述べられ、(1)研修体制の確立に努めること、(2)実践的な研修の充実を図ることが示されている。

園内研修を充実させることは、幼児理解を深め、教師の指導力を向上させ、幼児の生きる力の育成につながる。そのためには、教師間で信頼関係を深めることや共通理解を持つことが大切になってくる。また、園内研修を進めるにあたっては、全教師がかかわりそれぞれが意見を言える場であること、一人一人の個性を生かし認め合える場であること、研修内容が身近なもので幼児のニーズにあったものであること、研修記録を残しておくことなどが重要である。

これまでの園内研修は研修計画を作成しても継続的に研修を実施することができなかった。その原因として研修体制が確立していなかったこと、日々の保育に生かせる実践的な研修内容でなかったことなどが考えられる。今回それらの課題を踏まえ、園内研修の充実を図るため、身近な自然物を使った造形遊びを取り上げた。本園の自然物の活用状況を振り返ると、幼児は自然物を使って遊んではいるが、触れている素材が限られており、教師のかかわりも十分ではなかった。また、幼児が五感を働かせ全身を使って自然物に触れ、意図的に活動を引き出せる環境になかったためではないかと考える。その原因として、教師自身が自然物で遊んだ経験が少なく、自然物に対する認識が不足していること、教材研究の不足のために活用する手立てをよく知らないなどが挙げられる。また、幼児も生活様式の変化で家の中で遊ぶことや作られた環境で遊ぶなど、市販の人工物で遊ぶことが多くなり、自然物と関わって遊ぶことが減ったために興味をもてない状況にあると思われる。

造形遊びは幼児の発達に必要な試行錯誤的な遊びである。試したり、工夫したりして形を修正し、付け加えたりしてイメージを形として表し、何度も繰り返していくところに、この遊びのよさがある。このような、幼児の発達に必要な可塑性に富んだ素材を使った造形遊びの工夫について研修を深めたいと考える。

以上のことから、本研究では、研修体制を確立し、身近な自然物を使った造形遊びについての実践的な研修を進めることで、教師一人一人の意識を高めるとともに、実践的な指導力の向上を図り、園内研修を充実させていきたいと考える。

<研究の視点>

- 1 園内研修を通して教師の指導力の向上を図る。
- 2 自然物を生かした造形遊びの工夫をする。

Ⅱ 研究の内容

1 園内研修

(1) 園内研修の意義と必要性

現代の社会は科学技術の進歩など幼児を取り巻く環境が年々変貌してきている。教師は幼児理解を深め、社会の変化に対応した、よりよい保育を提供する必要がある。そのため、日々、研修を積み保育の専門性を高めなければならない。園内研修は教師の研修意欲を喚起し、幼稚園教育の目標を達成するための基礎となるものである。幼稚園教育要領に基づき、教師が一つの課題に向かって協力し、幼稚園の実態に合わせ、教師集団が幼児、社会のニーズに合った保育技術の向上、資質の向上のために行われるものである。

(2) 園内研修の充実

園内研修を充実させるためには、教師が共通の課題意識をもち、それぞれの個性を尊重し、様々な情報を共有し、共通理解をすること、内容が具体的で身近なものであることが大切である。研修テーマを設け、教師全員が向上していけるような研修をすること。そのことが幼児や地域のニーズに合ったよりよい保育の提供につながる。教師と幼児が共に育ち合える身近なことから研修課題を見つけ、研修すること。また、教師一人一人が研修に意欲をもち幼稚園教育の目標達成や課題解決のために全員が協力して実践をしていくことで充実につながる。

(3) 研修体制確立のための役割分担

表 1 職員の役割分担

教頭の役割として、①広い視野に立ち、日頃から教師の個性を尊重しよさを見つけること、②教師同士が普段から話しやすい雰囲気を作ること、③互いに尊重しながら教師集団として、それぞれの意見を認め合う「場」作りをすること、④色々な資料や情報を提供し、どこに課題があるのか、問題を提起し、調整をする等があげられる。

また、教師の姿勢として、互いのよさを認め合い、切磋琢磨し、協力しあえる人間関係が大切である。教師一人一人が目的意識をもち、どこに課題があり、何が問題なのかを確認し、研修を自分のものとして、自ら積極的に研修にかかわることを心がける。

職 名	役割の分担
園 長	研修の総括、指導助言
教 頭	研修の企画運営、渉外、指導助言、資料の提示、まとめ
研究主任	企画運営、資料の提示、まとめ
学級担任	保育実践、保育実践記録、幼児の実態把握

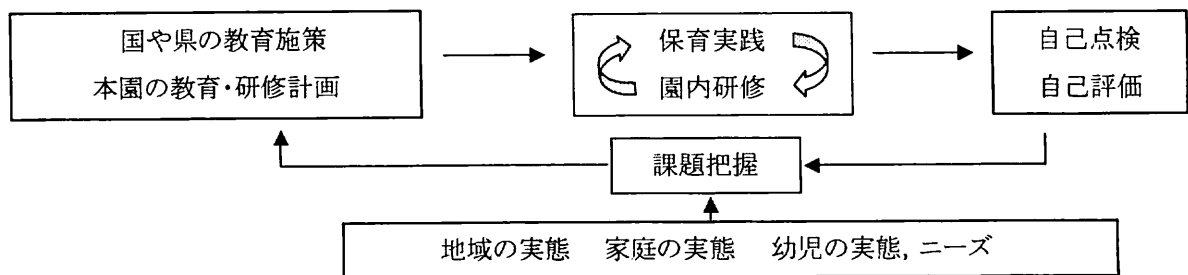
(4) 研修計画の作成

園内研修計画を作成するために次の点に留意する。

- ① 実践上の課題を明確に把握し適切な研修内容を選択する。
- ② 国や県の教育施策を基に幼稚園の実態を踏まえ保育実践上の問題や前年度の課題など身近な内容を明確にする。
- ③ カンファレンス、実技研修等、課題解決の方法を探る。
- ④ 課題解決をし、研修の成果、幼児の変容を記録に残す。
- ⑤ 定期的研修、又は必要に応じて随時に研修を行い、研修の時間を確保する。
- ⑥ 役割分担を行い研修がスムーズに行えるように努める。
- ⑦ 幼児の実態や幼児のニーズを把握し研修を進める。

(5) 園内研修の流れ

園内研修は計画、実践、評価の繰り返しで行われ充実していく。



(6) 実践的な研修の推進

園内研修を充実させるためには具体的な実施計画、内容が必要である。

実践項目	内 容
研 修 計 画	・前年度の課題の再確認 ・今年度の幼児の実態 ・今年度の課題設定 ・研修計画の作成(園内研修の実施計画を作る) ・研修の方法, 方策 ・研修の役割分担
実 践 内 容	・園内研修会の充実(時間の確保, 内容の確認) ・内容の共通理解をする(理論研修, カンファレンス) ・幼児理解を十分にする(日々の保育反省) ・保育検討会の実施(事例検討会, 公開保育) ・環境の見直しと保育の工夫(保育の反省, 保育実践) ・研修会の実施(外部講師による研修, 園外研修へ参加, 実技研修)
評 価	・今年度の研修のまとめ ・次年度に向けて内容を具体化する ・課題解決, 目標達成のための計画, 実践, 評価

2 自然物を使った造形遊び

(1) 幼稚園における造形遊び

幼児期は身体的な基礎ができあがり、情緒面や社会面においても人間形成の基礎になる時期である。また、仲間と一緒に生活体験を積み重ねていく中でイメージを膨らませ、探求心や好奇心といった知的面も急速に育っていく。造形遊びはそういう幼児期の遊びとして最適であるといえる。自らの手を使い、直接、物に触れ、繰り返し経験することができ、試したり、工夫したり、変化に富んだ試行錯誤的な遊びである。言語表現が不十分な幼児は、自分のイメージしたことを素材を使って自分なりに変化させ視覚に訴える。作りながら考え、考えながら作るという作業を繰り返し行う。偶然にできた形にも意味づけをする。

造形遊びはできあがりよりも、どのようにしてできたか、過程を大切にする。作る過程で幼児は自己発揮、自己実現し自分の存在を実感し充実感を味わっていく。そのことが、園児の気持ちを安定させ幼稚園生活を楽しみ、新たな遊びへと挑戦していくようになる。

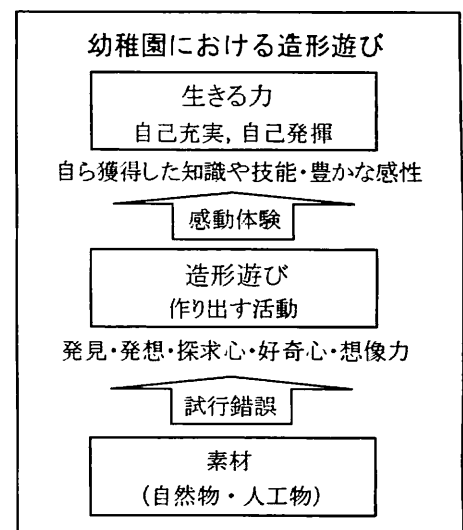


図1 幼稚園における造形遊び

(2) 園庭の自然物を使った遊び

幼児にとって身近な環境は幼稚園であり、生活体験を積む場である。園庭には、様々な土、砂、水、草、石、木の葉、花などがそろっていて、それらの自然物は幼児の興味や関心を引きだし、様々な遊びを生み出し、多くのものが学べる教材である。素材を操作して遊ぶ中から新たな遊びが生まれ、新たな感動が生まれていく。幼児は感覚的に自然物を捉え、見たり触ったりしてよさを体感する。触れる経験をすることで試し工夫したりする遊びが始まり作ったり、壊したり、試行錯誤しながら遊びが生まれ、感動体験を何度も繰り返していく。そのなかで、自己発揮、自己充実していく。自然物は使って遊ぶ中から新たな遊びや新たな感動が生まれ、幼児の成長になくてはならないものである。

Ⅲ 保育実践

1 活動名

自然物を使って遊ぼう

2 活動設定の理由

日頃、幼児は園庭にある自然物を使って遊んでいる。幼児がいつでも手にすることのできる場所にあり、触れる中で感じ、味わい、特色や不思議さ、面白さに気づく。そして、興味や関心、好奇心、探求心に合ったものを遊びに取り入れていこうとする。自然物に興味や関心をもたせ、遊びにつなげていくためには教師がモデルとなって、具体的に扱っていくことが大切である。教師が自然物の特色を捉え、幼児と共に感動体験し共有することで、今まで以上に興味や関心をもたせ活用させていくものとする。教師が園庭の自然物に積極的に触れることで、幼児に新しいアイデアを提供し、新たな発見を起こさせ、新しい遊びへと展開できるようにしていきたい。

(1) 教材観

自然物は、園庭で幼児の目にとまりやすい場所にあり、いつでも手に触れることができ、好奇心を喚起するのに最適である。自然物は、かかわっていきなかに繰り返したり、試したり工夫したりして、好奇心や探求心を十分に満たす素材である。園庭の木の葉、草花等を知ることによって興味や関心が深まり新しい遊びへと広がる教材である。

自然物	活 用 例
砂	山、川、池、団子、ケーキ、ご飯等
土	川、団子、型押し、粘土等
草 花	ケーキの飾り、砂山の飾り、花束 ご馳走、色水、腕輪、首飾り、冠等
木の葉 木の实	砂山の木、皿、ハンカチ、あめ玉、 ムーチー、ご馳走、リース等

(2) 幼児観

園生活の中で幼児は自然物にかかわって遊んでいる。個でかかわる時があれば、友達と一緒に自然物に触れて遊んでいる場合もある。砂や土、水を使って山や川、団子、ケーキ等を作って感触を楽しみ、草花を使って色水や冠、花束を作っている。木の葉や実ではハンカチや皿、ムーチー等に変化させて遊びを進めている。このように自然物にかかわって遊んでいるが、使っている物が限られていたり、素材そのものを使っていたり、変化させたり工夫したりすることが少ない。中には自然物にかかわることに抵抗感をもっている幼児も数人いる。

(3) 指導観

教師は、幼児との信頼関係を基盤として保育を行っている。幼児にとって教師は、大人のモデルである。そこで、自然物に触れることに抵抗感を持っている幼児や、どう扱っていいか解らずにとまどっている幼児には、内面理解をしながら共にかかわっていく。

教師が、自然物へのかかわりを造形遊びで実践して見せ、提案していくことで、徐々に幼児の抵抗

感をなくし、自然物に触れられるように支援していく。このようにして、教師が、木の葉や草花の活用方法を広げることで、幼児は自然物を使った遊びの楽しさを知り、かかわって遊ぶようになる。

今回、いろいろな自然環境の中から、いつも使っている木の葉や草花を使って興味や関心を深め、さらに新しい遊びのイメージへつなげたい。また、個人やグループ、全体でかかわったり、教師もまた、幼児と一緒に遊ぶ中で自然物に対する興味や関心を高めていきたい。

3 保育計画及び研修計画

月 日	研 修	ね ら い	内 容
6 月 15 日	実技研修会 外部講師	園庭の自然物の教材化 (園庭の自然物の活用を知る)	実際に自然物を使って作る。 ・ガジュマルの葉「チョウチョウ、ぞうり」 ・アダンの葉「風車、腕輪、指輪、かたつむり」 ・モモタマシの葉「お面、帽子」・オオバギの葉「たこ」 ・ハイキビの茎「はさみ」・モクマオウの葉「すもうとり」 ・ゲットウの茎の芯「笛」 ・乾燥したゲットウのがく「マラカス」 (集中力、手先の器用さ、用具や材料の使い方を養う)
6 月 29 日	事例検討会	ねらいに沿った抽出児の選び方	抽出児を選ぶ観点や記録の取り方について話し合う。 ・平均的な幼児の選定 ・特出した幼児の選定 (入園当初の自然物や造形遊びの様子、教師の願いや援助、幼児の変容、家庭環境)
6 月 30 日	保育実践 (色水、こすりだしで遊ぼう)	自然物に触れて遊ぶ楽しさを味わう	草や花で色水を作り色のでることを知る。 紙にクレヨンでいろいろなものをこすりだし、写して見る。 (草花など必要なだけ取る)
7 月 2 日	事例検討会 (指導講師)	ねらいに沿った援助の方法	教師の援助活動や幼児の変容について話し合う。 抽出児の記録の取り方について話し合う。
7 月 8 日	保育実践 (木の葉、木の実で作って遊ぼう)	木の葉、実からイメージを形にして楽しむ	木の葉や木の実からイメージしたものを作る。 形や材質を知り、工夫して作る。 作ったもので遊ぶ。 (材料は必要なだけ取る)
7 月 12 日	環境の準備 (検証保育)	検証保育の準備	検証保育の環境設定、教材の準備をする。 検証保育の打ち合わせ。
7 月 13 日 本 時	検証保育 (自然物を使って遊ぼう)	自然物を使って造形遊びを楽しむ	うつして遊ぼう(フロッタージュ) ・木の葉を写す。 つくって遊ぼう(木の葉で作る) ・木の葉を束ねて作る。 かいて遊ぼう(草花のクレヨン) ・草花で描く。

4 外部講師による実技研修会

(1) 庭の自然物の教材化（園庭の自然物の活用を知る）＜講師の講話より＞

- ① 自然物を主にし、補助教材として、人工物を使って作ることで、楽しさが増してくる。
- ② 昔は色々な自然物を使い、自ら工夫して遊ぶものを作りだし楽しんでいた。
- ③ 自然物を使って遊んでいるうちに、好奇心や探求心が深まり、自然現象にも興味や関心を抱く。
- ④ 自然物を使って作る作業をする中で思考力や集中力がつき、手先の器用さも養われてくる。
- ⑤ 用具や教材の使い方や利用の仕方が分かり、応用することができる。

(2) 研修内容

- ガジュマルの葉（チョウチョウ、ぞうり） ○アダンの葉（風車、指輪、腕輪、かたつむり）
○モモタマナの葉（帽子、お面） ○モクマオウの葉や松葉（相撲取り） ○オオバギの葉（凧）

(3) 実技研修 事例

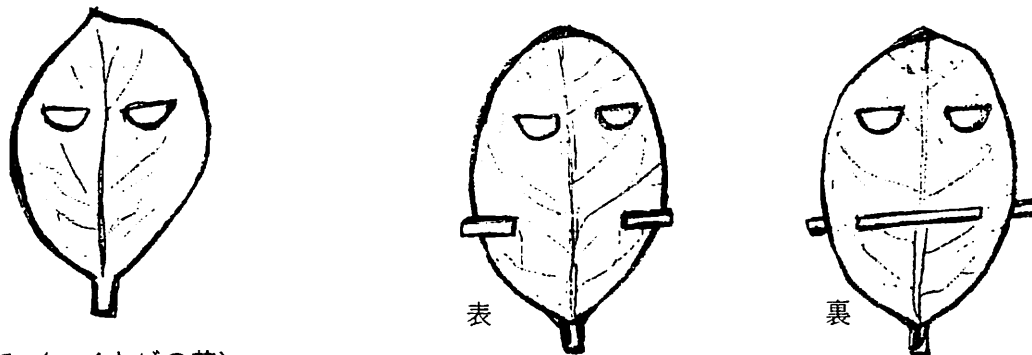
① ぼうし（モモタマナの葉）

- (1) 木の葉を重ね、つまようじで縫い合わせる (2) 木の葉が輪になるようにする (3) 上部を束ねる



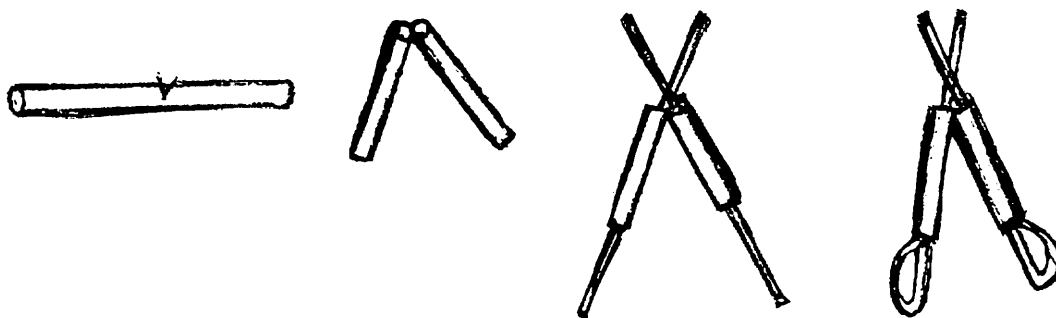
② お面（モモタマナの葉）

- (1) ハサミで目になる部分を切る (2) わりばしを口になるように差し込む (3) 裏がえす



③ はさみ（ハイキビの茎）

- (1) 真ん中に切れ目を入れる (2) 二つに折る (3) 細い芯を通す (4) 持ち手を作る



5 本時の展開

幼児の姿	・友達と一緒に砂や土を使って繰り返したり，試したりして遊ぶ姿が見られる。 ・草花を使って色水を作ったり，シャボン玉などの水を使った遊びを楽しんでいる。 ・園庭にある木の葉，実，花を使って友達と一緒に制作を楽しんでいる。	
ね ら い	・自然物を使って造形遊びを楽しむ。	
保育の視点	・自然物を使って遊びの楽しさを味わっていたか。 ・自然物を使って遊びを楽しませる援助はできていたか。	
内 容	・木の葉，草花で作ったり，描いたりして遊ぶ。	
時 刻	幼児の活動	援助および指導上の留意点
8 : 15	・登園 登園時の活動（持ち物の始末，当番活動）	・一人一人の顔を見ながら挨拶を交わし言動などから健康状態や心理状態を把握する。 当番活動ができるように励ます。
9 : 00	・遊戯室に集まる。 挨拶，本日の遊びについて知る。 （各グループに分かれて作業に入る） ・うつつて遊ぼう <フロッタージュ> 木の葉の形の面白さに気づく。 紙に写してみる。 イメージしたものを描き加え，切ったものを組み合わせて貼る。 ・つくって遊ぼう <木の葉で作ろう> 束ねたり，切ったり，くっつけたりして形を整える。作ったもので工夫しながら友達と遊ぶ。 ・かいて遊ぼう <草や花のクレヨン> 草花で画用紙に描いて色がでることを確かめる。いろいろな草花で描く。	・幼児がこれまで自然物をどのように使って遊んでいたか，確認しやすいように見せ，幼児の発言も拾いながら，本日の活動に期待を持たせる。 ・木の葉の特徴に気づかせ，イメージを広げる，困っている幼児には，一緒に考えアドバイスをする。作った作品のイメージを共有し共感する。 ・素材の活用例を示し特徴を捉えやすいようにする。スムーズに進んでいる幼児は自信をもたせ，困っている友達の手助けができるようにさせる。作った物と一緒に遊ぶ中で，幼児の新たな工夫をみつけ，認め，全体にひろげる。 ・色水以外に，色のでる草花の活用や不思議さに気づかせる。草花でも絵が描けることを知らせると同時に，草花の命をもらって描いているという感謝の気持ちも育てる。
9 : 45	・片づけ みんなで分別して片づける。	・片づけやすいように，かごや，ちり袋などを準備する。
10 : 00	・まとめ 友達や自分の作品をみて話し合いをする。	・今日の遊びについて話し合い，自然物を大切に使う気持ちをもたせる。
10 : 15	・作品や使った用具を持って，各教室へ移動する。	
評 価	自然物を使って造形遊びを楽しんでいたか。	

6 本時の具体的な活動内容と留意事項

活動名	準備する物	活動の流れ	留意事項
うつして遊ぼう (フロッタージュ)	- 木の葉 (ヨウテイボク、ビンロウジ、ガジュマル、桜、デイゴ、オオバギ) - 白紙・クレヨン - セロハンテープ - のり・はさみ - ふきん・新聞紙	- 木の葉の形で遊ぶ。 - 選んだ葉を机に置き、その上に白紙をのせ、手触りで確かめる。 - 白紙の上からクレヨンを寝かせてこすり写す。 - 写った形を切り取り並べてイメージした形に作る。 - 切った形を組み合わせたり、描いたりする。 - 壁に貼る。	- 木の葉を見せ、形から特徴やイメージする物の名前を、幼児の声を拾いながら知らせる。 - 周りの幼児が見やすいように、うつして見せ、クレヨンを寝かせた方がよいことに気づかせる。 - 興味のない幼児には、他の幼児に協力してもらい十分に対応する。 - 写せない場合は一緒にやる。 - 写した幼児は皆に紹介する。 - 切った形を組み合わせさせて色々なものにイメージさせる。 - 形が不足した場合に備え、いくつか前もって用意する。
つくって遊ぼう (木の葉で作ろう)	- 木の葉 (モクマオウ、モモタマナ、松) - セロハンテープ - はさみ・マジック - つまようじ - わりばし - 紙 - 箱	- モクマオウの葉を小指大に束ねテープで止め葉先を切りそろえる。 - 立てて置き、机をたたいて動かす。 - 人をイメージして顔を作り、はりつけ、動かして遊ぶ。 - モモタマナの葉で面作りをする。	- 幼児に分かりやすいように作業をして見せる。 - 材料や用具は必要なだけ取るように促す。 - 安全なはさみの使い方は、その場で確認する。 - 顔があるとよいことに気づかせる。 - 顔をつけ一緒に遊ぶ楽しさを共有する。
かいて遊ぼう (草花のクレヨン)	- 草花 (ハウセンアメリカハナグルマ、オシロイバナ、マツバボタン、ハイビスカス、インパチェンス、サルビアカタバミ、ニチニチソウ) - 画用紙	- 草花の名前を知る。 - 草花を画用紙にこすりつけてそれぞれの色順番に色を出す。 - 草花で自由に画用紙に描く。 - 描いたものを壁に貼る。 - 色が変化する事を知る。	- 期待をもたせるために、草花を見せ名前を知らせ、どんな色になるのか幼児の声を拾う。 - 一緒に色出しをしながら、優しい色、柔らかい色、暖かい色などの色の表現をしながら進める。 - イメージしたものを自由に描けるように画用紙をかえ、描いた幼児は自分で貼るように促す。 - 草花は必要なだけ取るように促す。

7 検証保育の考察（保育観察から）

(1) 自然物を使って楽しく遊んでいたか。

- ・ 幼児が集中して作ったり、描いたり、写したりして遊んでいた。「つくって遊ぼうコーナー」では松葉で引っ張り相撲をし、「うつして遊ぼうコーナー」では葉脈が写ることに喜び、「かいて遊ぼうコーナー」では草花をクレヨンの代わりにして描くなど、幼児が自然物に興味を示し、自然物を使って楽しく遊んでいた。

(2) イメージを膨らませて楽しんでいたか。

- ・ 教師が提示した自然物を使って幼児のイメージは色々なものへと変化し遊びを楽しくさせた。
「かいて遊ぼうコーナー」では絵を描くだけでなく模様やデザインへイメージが膨らんでいた。
「うつして遊ぼうコーナー」では写した木の葉を組み合わせて魚、サンゴ、バナナなどを作っていた。

(3) 自然物を使った造形遊びの環境の工夫ができていたか。

- ・ 保育の教材教具の準備が十分になされ、園全体で自然物に取り組む環境設定がなされていた。

(4) 自然物を使う楽しさを味わえる援助ができていたか。

- ・ 教師が自然物を使った教材を提示し、それを使って幼児は楽しく活動していた。活動の中で教師が幼児の活動に合わせた声かけをしたり、手を取って一緒に行くなど、適切な援助がなされていた。
- ・ 全体活動の中で教師が提示をしたのでどの幼児も、自然物にもれなく関わり活動できた。

IV 研究全体の考察

1 園内研修を通して教師の指導力の向上は図れたか

(1) 園内研修実施について職員の感想

- ①園内研修を通して、植物の取り入れ方や色々な活用方法が学べた。
- ②園内研修で学んだことを日々の保育に取り入れて幼児と共に遊ぶことで楽しさが共有できた。
- ③教師が意図的に教材を投入すれば幼児の発想が広がり新しいアイデアが生まれることが分かった。
- ④幼児の発想の豊かさや、幼児理解が深まった。
- ⑤教師も自然物に目を向け幼児と一緒に楽しむ教材作りのアイデアを持つようになった。
- ⑥個に対する援助は、普段の保育の中で丁寧にかかわって行われなければならないと感じた。
- ⑦教師が遊びの基になる教材を数多く知らせ、積極的にかかわることが幼児の刺激となると分かった。

(2) 考察

- ①園内研修で具体的な園庭の自然物を使って、全教師が一同に教材研究をしたことで自信をもって幼児に提示することができ、指導力の向上につながったと考えられる。
- ②園内研修をした教材を使って幼児と共に遊ぶ体験を共有することで、幼児の発想の豊かさを再確認する事ができ、幼児理解が深まったといえる。
- ③園内研修をする中で、教材の意図的な投入の大切さや教師の姿勢で幼児の興味や関心が異なることが分かり指導力の向上になった。

2 自然物を生かした造形遊びの工夫はできていたか

教師が活用の仕方を示すと幼児は色々な工夫をし、造形遊びを展開することができた。造形遊びで、工夫した様子を、幼児の作品を基に考察する。

＜こびとの帽子＞

教師は「モモタマナの葉」をつまようじで縫い合わせ帽子を作る提示をした。幼児は、「こびとの帽子」をイメージしガジュマルの小枝をつけてボンボンにした。モモタマナの葉の帽子が森の中の「こびと」をイメージさせ、帽子に小枝をつける工夫をすることで、さらに、イメージを鮮明にした。作った後、教師を「こびと先生」と名付け、幼児はこびとになって、輪になって踊り出した。工夫することが、劇遊びやリズム遊びへのきっかけになった。

＜はっぱのウサギ＞

素材は「オオバギの葉、サンダンカの葉、ヨウテイボクの種」である。幼稚園で飼っている「ウサギ」をイメージし、木の葉、種を組み合わせで作った。長い葉は耳、丸い葉は顔、赤茶の種目、鼻、口、頬に使っている。幼児は素材の持つ特徴を捉え、顔に適している木の葉、耳に適している木の葉、目に適している種、というように素材を把握し、工夫して表現することができた。

＜まつばずもう＞

教師が、松葉を束ねる作業を提示した。幼児は松葉を束ねた後に、試行錯誤しながら松葉を立たせる。松葉が立つと、机をたたいて振動させ動かし「踊っているみたい、競争している」と遊んでいる。さらに工夫して、顔をつけて箱の上にのせ二人で相撲をさせている。素材の特色を見つけ、工夫して作ることで遊びを広げ楽しむことができた。



V 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 理論研修や実技研修をすることで、幼児理解が深まり、実践的指導力が向上した。
- (2) 保育のねらいを達成するうえで、教材研究や教材提示の方法が大切であることが分かり、園内研修の意識が高まった。
- (3) 園内研修をすることで、幼児のニーズにあった造形遊びの工夫をすることができた。

2 今後の課題

- (1) カンファレンスを多くもち、一人一人に対する援助の方法を具体化し、実践していく。
- (2) 幼児の遊びの広がりを見とおし、素材の生かし方など継続して研修を進めていく。

＜主な参考文献＞

文部省	『幼稚園教育要領解説書』	フレーベル館	1999 年
小田 豊	『新たな幼稚園教育の展開』	東洋館出版社	2003 年
板良敷 敏	『形遊びの魅力』	日本文教出版株式会社	1993 年
全国国公立幼稚園長会	『幼稚園教育大全・第五巻』	株式会社スギタ	1996 年